

伝統芸能紹介

(各団体からの
提供資料より)

第5回

南陽地域

ふれあいまつり

「尾張新次郎太鼓保存会」

「尾張新次郎太鼓」は、愛知県西部の農村地帯に伝わる神樂太鼓です。その名は祭囃子の復活に生涯を捧げた、故西川新次郎氏の名前からきています。

太平洋戦争前まで神樂太鼓は、農村の青年達が、神仏に奉納する芸能の一つとして盛んに叩かれてきました。時には競技会が開催されましたが、太平洋戦争・伊勢湾台風を経ると、祭祀でも太鼓と笛の音の響く所は少なくなっていました。

下之一色の西川新次郎氏は、昭和40年ごろから、港区旧南陽町や中川区旧富田町など、かつて農村だった自治会から要請をうけ、自分の覚えた神樂太鼓の技を精力的に若者へ伝えたのです。昭和54年、多くの弟子ムラが一堂に集い、「尾張新次郎太鼓保存会」を結成し、新次郎氏は初代会長に就任しました。

現在は福田学区を活動拠点とし、西福田学区にも支部を置いております。



「尾張太鼓小西保存会」

今から二百年ほど前、江戸時代は、後期の頃より尾張地方、ことに愛知県海部郡南西部地方に、神社の祭祀に五穀豊穡と住民の安全を願って、金色に輝く屋形神樂を引き回し、勇壮に太鼓を打ち鳴らし村々を廻る風習が伝えられております。そのとき打ち鳴らす太鼓の打法を、「尾張太鼓」といいます。



「尾張太鼓「川原太鼓連」」

十年前、「合併50周年記念事業」の折に、尾張太鼓小西保存会の支援を受け、数十年ぶりに活動を再開した「尾張太鼓」の流れを汲む団体です。



「春田野神明社奉賛会」

「春田野神明社」は東福田地区開拓の際、伊勢神宮ご分霊を仰ぎ奉りて奉祀し、工事の成功を祈った神社で、雅樂の演奏は、八十〜九十年前に先人が熱田神宮へ稽古に行かれ、習得されたのが始まりです。



※各団体への加入申し込みについては、それぞれの町内会を通じて行っております。